

製品名: RelB ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21141**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:62kD;Observed MW:62kD

抗原情報

遺伝子名	RELB
別名	RELB;Transcription factor RelB;l-Rel
遺伝子 ID	5971.0
SwissProt ID	Q01201
免疫原	ヒト Rel B の合成ペプチド

背景

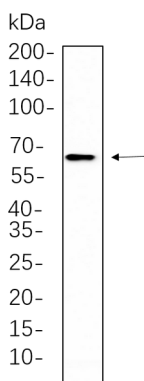
細胞局在核。注意:当初 (PubMed:1577270) は核因子 NF-κB の転写活性を阻害すると考えられていました。ドメイン:転写活性化には

N 末端ドメインと C 末端ドメインの両方が必要です。機能:NF-κB は多面的転写因子であり、ほぼすべての細胞タイプに存在し、炎症、免疫、分化、細胞増殖、腫瘍形成、アポトーシスなどの多くの生物学的プロセスに関与しています。NF-κB は、Rel 様ドメインを含むタンパク質 RELA/p65、RELB、NFKB1/p105、NFKB1/p50、REL、および NFKB2/p52 によって形成されるホモ二量体またはヘテロ二量体複合体です。二量体は標的遺伝子の DNA の κB 部位に結合し、個々の二量体は異なる κB 部位に対して明確な親和性および特異性を持って結合することを好みます。異なる二量体の組み合わせは、それぞれ転写活性化因子または転写抑制因子として作用します。NF-κB は、翻訳後修飾および細胞内区画化のさまざまなメカニズム、ならびに他の補因子またはコリプレッサーとの相互作用によって制御されます。NF-κB 複合体は、NF-κB 阻害因子 (I-κB) ファミリーのメンバーと複合体を形成し、不活性状態で細胞質内に保持されます。従来の活性化経路では、I-κB はさまざまな活性化因子に反応して I-κB キナーゼ (IKK) によってリン酸化され、その後分解されて活性 NF-κB 複合体が遊離し、核に移行します。NF-κB ヘテロ二量体 RelB-p50 および RelB-p52 複合体は転写活性化因子です。RELB は DNA、RELA/p65、REL とは会合しません。NFKB2/p49 存在下でプロモーター活性を刺激します。誘導: マイトジェンによる。PTM: Thr-103 および Ser-573 のリン酸化の後、プロテアソーム分解が起こります。類似性: RHD (Rel 様) ドメインを 1 つ含みます。サブユニット: NF-κB RelB-p50 複合体の構成要素。NF-κB RelB-p52 複合体の構成要素。自己会合します。相互作用は一時的であると考えられ、分解を阻害することで p50 または p52 とのヘテロ二量体形成を可能にします。NFKB1/p50、NFKB2/p52、NFKB2/p100 と相互作用する。NFKBID と相互作用する。

研究分野

-

画像データ



NIH-3T3 全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、メンブレンを RelB ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。